

2. 世代交代がすすむ横手市における若手養護教諭の支援体制

○菅原 優子 (秋田県立平成高等学校)

月澤千鶴子 (旧所属:横手市立平鹿中学校 現所属:横手市立山内小学校)

佐藤友里亜 (秋田県立雄物川高等学校)

高橋 陽子 (旧所属:秋田県立増田高等学校 現所属:秋田県立横手城南高等学校)

【研究目的】

横手市ではこれまで学校保健活動を支えてきた養護教諭がここ数年で大幅に退職し、経験の浅い若手養護教諭が中心となる時代を迎える。養護教諭は基本的に一人職種であり、養護教諭同士の実践交流が重要である。しかし、急速な世代交代により、実践交流が不十分になる危機が迫っている。そこで、養護教諭の現場力などマニュアルでは継承できない事柄をどのように引き継ぐのか、その支援体制プログラムを構築する。

【研究の必要性】

養護教諭は、特別支援学校や大規模校を除き基本的に一人職種であり、教科を教える他の教員と違い、職場（学校）内でのフォローアップがないことが多い。しかも採用と同時にベテラン並みの技量を求められることもある。そのため、養護教諭同士の実践交流が重要であり、地域の職域団体である横手市養護教諭研究会が果たす役割は極めて大きい。

しかし、大幅な世代交代により、聞きたいときに聞ける経験豊かな養護教諭が身近にいないだけでなく、横手市養護教諭研究会の運営にも支障が生じる可能性がある。近年、養護教諭の執務に関する手引き書や実践記録などが多数刊行され、わからないとき、迷ったときにひもとくことができるようになったが、対人援助職である養護教諭の執務は、マニュアルでは解決できない事柄も多い。そのため、これまでの経験により培った養護教諭の現場力や経験知を次世代に継承する方策が必要である。

そこで私たちは、養護教諭の現場力などマニュアルでは継承できない事柄を引き継ぎ、そのエッセンスを学ぶ方法として、インタビュー調査という手法を選択した。インタビューは、インタビュアーとインタビューイの間の相互行為（インター・アクション）のなかで知識が作られる営みであり、まなざし/見解の間で生じるもの（インター・ビュー）であると言われている。つまり、インタビューは、相互影響過程を生み出すための代表的な手法であり、相互影響過程を生み出すことができれば、養護教諭の専門性を高めることに寄与すると考えられ、本研究の意義は大きい。

【研究計画】

1) 養護教諭の執務に関する調査

①質問紙調査

○横手市養護教諭研究会会員を対象に、インタビュー調査の予備調査として実施。

○2019年1月、横手市養護教諭研究会冬季研修会にて趣旨を説明、その場で質問紙調査票を配付し、後日郵送にて回収。

②インタビュー調査

○質問紙調査により協力意向が得られた養護教諭に対し、困難な問題への対処法や失敗談などについて、2019年3月～6月にインタビュー調査を行う。インタビュアーには若手を起用する。

2) 研修会の開催

研究の妥当性を確認し専門性を高めるため、養護教諭の本質を追究している専門家を交えた研修会を2019年3月に行う。話題提供者として、養護実践研究センター代表である大谷尚子氏をお招きし、「養護教諭の実践を引き継ぐ」というテーマで、参加者と話題提供者が対話的な研修会を開催。

3) 先進地視察

地区内で養護教諭の共同研究としてインタビュー調査を行っている先進地を視察し、資料を収集する。2018年11月、インタビューを通して地区研究を進めている千葉県習志野市内の養護教諭のグループから、研究のプロセスのレクチャーを受ける。

4) 研究のまとめ

インタビュー調査の結果をもとに、若手養護教諭の執務支援のための小冊子を作成する。

【実施内容・結果】

1) 質問紙調査の実施内容・結果

(1) 質問紙調査内容の概要

これまでの職務の中で、

- ・失敗したなあ、こんなふうにすればよかったなど「今でも気になっている経験」の有無
- ・今でも気になっている経験の種別、対象、原因、改善や克服した取組
- ・心の中で引っかかっているエピソード及び経験年数など

(2) 質問紙調査数

質問紙調査を会員 27 名に依頼、内 23 名から回答を得た。(回収率 85.2%、有効回答数 100%)

(3) 回答者の年代

回答者を年代別に見ると図 1 に示すとおり、50 歳以上が 62.5%と最も多く、30 歳代は 0%であった。

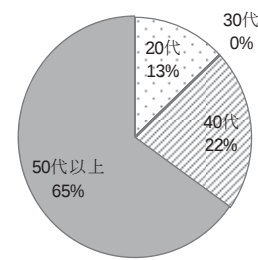


図 1 回答者の年代

(4) 今でも気になっている経験について

「今でも気になっていること」は、「救急処置」に関連することが一番多く、次いで「連携・協働」に関することであった。また、「今でも気になっている対象」は、「児童生徒」を回答者全員が上げており、次いで「担任」、「保護者」の順であった。

(人)

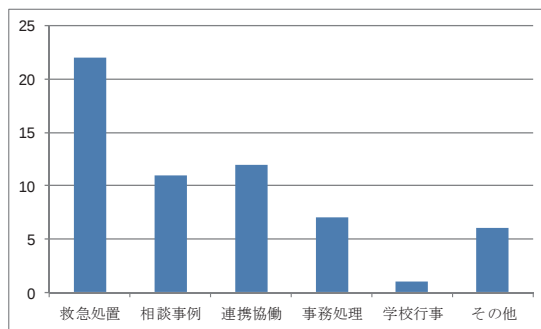


図 2 今でも気になっていること

(人)

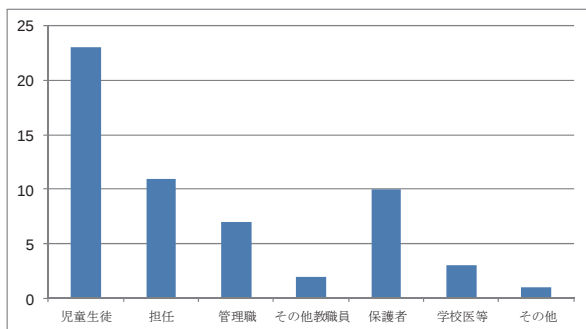


図 3 今でも気になっている対象

2) インタビュー調査の実施内容・結果

(1) インタビュー内容の概要

質問紙調査の結果をもとに、今でも気になっていることの内「連携・協働」及び「担任」、「保護者」に焦点を当て、主に職員間の協働や保護者対応について内容を設定した。

- ①担任をはじめ職員間の協働に関する失敗談・今でも気になっていること。
- ②子どもから「担任の先生に言わないでください」と言われた時の対応。
- ③保健室で休養させてもなかなか回復しない場合など、保護者へ伝える際に留意していること。
- ④保護者との対応場面での失敗談・今でも気になっていること。
- ⑤今まで養護教諭を続けてこられたのは何か。
- ⑥その他 経験年数など

(2) インタビュー調査の対象・時期

インタビュー調査に協力意向が得られた経験年数20年以上の養護教諭8名を対象とした。職務の繁忙期(4月～5月)を避け、3月下旬及び5月下旬～6月上旬に、横手市内の公共施設内でインタビューを行った。内容は同意を得てICレコーダーに録音した。

(3) 小冊子の作成

インタビューデータを逐語録に起こし、小冊子作成のためのキーワードを探した。キーワードに沿い、読み手にわかりやすいデータの表し方を検討した。その結果、次のような構成で小冊子を作製した。

小冊子の構成(目次)

タイトル	えーる ～失敗してもそこからスタート～
Part 1	職員間の協働…………… 4
	・保健室登校の対応を通して
	・保健日誌への記録をめぐって
	・日常のコミュニケーション
Part 2	保健室での相談…………… 14
	・「先生に言わないで」と言われたら
Part 3	保護者との対応…………… 18
	・自分じゃないのに自分が言われる
	・緊急時の連絡はだれに
	・ケガなどで受診させる場合の留意点
	・時には女優になることも
Part 4	エピソード…………… 26
	・救急編1 <地域住民参加の行事で>
	・救急編2 <病院に付き添ったけど>
	・救急編3 <情報不足で>
	・救急編4 <見た目の判断は>
	・救急編5 <校門で待っているとは…>
	・報連相編1 <後でトラブルに>
	・報連相編2 <順番が違うぞ>
Part 5	続けてこられたのは…………… 34

(5) インタビュアーの若手養護教諭が、インタビュー体験後に語った感想

◇私たち若手が日頃の保健室経営や対応の中で、失敗したり悩んだりした時に、先輩養護教諭の失敗から学んだ事例の話を聞く機会があると、「失敗は自分だけではないんだ」という安心にもつながると同時に、そういえばあの先輩も似たような経験をしていたな、「相談してみようかな」と、相談をするという選択肢ができたように思う。

◇もし先輩と情報共有する機会がなければ、若手は誰にも相談できず、1人で抱え込むかもしれないと思った。今回のインタビューを通して、「自分のことも相談していいんだ」と思えるような関係性が築くことができたと思う。だから、研修会や部会等は、ただの学びの場として機能するだけではないということも学んだ。

◇相手から与えられたものや、ただの受け身での学びよりも、こちらから先に問いを投げかけて、その回答から疑問をさらに掘り下げて学びを深めた方が印象に残るのではないかと思う。インタビューの場合は、より考えることになる。

◇様々な研修の機会があり、その時により形式も違うが、そういう機会を積み重ね養護教諭の仲間たちと交流を深めることで、若手からも質問しやすい関係性が出来ていくのだと思う。ベテラン→若手ではなく、ベテラン⇄若手の関係が成り立つようになると実践交流がすすむのではないかと思う。

【考察と今後の課題】

マニュアルでは解決できない養護教諭の現場力や経験知を次世代に継承する方策として、インタビュー調査を行い、インタビュアーとインタビューーの間に相互影響過程を生み出すことができたのではないかと考える。今後は、若手養護教諭支援体制として、様々な研修プログラムを作成・体験し、研修のあり方を探っていきたい。

【参考文献】

- クヴァール, S. (2016). 質的研究のための「インタ・ビュー」(能智正博・徳田治子訳) 新曜社
- やまだようこ. (2007). ナラティブ研究. やまだようこ(編). 質的心理学の方法-語りをきく. 新曜社
- 熊野英一. (2018). アドラー式働き方改革 仕事も家庭も充実させたいパパのための本. 小学館

【経費使途明細】

使 途	金 額
旅費（地区研究資料収集・データ解析資料収集：3名）	92,030 円
研修会費（講師謝礼・講師旅費・会議費：1回）	66,396 円
調査費（会場使用料・謝礼・打合せ会議費）	51,886 円
冊子印刷代	90,720 円
消耗品費（プリンターインク・用紙・USBメモリー・封筒等）	18,716 円
書籍購入費	9,150 円
合 計	328,898 円
大同生命厚生事業団助成金	300,000 円